

特別講演 1

「片頭痛治療の進歩 ～当たり前前の日常を取り戻すために～」

福井県済生会病院 脳神経外科副部長

山崎 法明 先生

片頭痛は日常・社会生活に支障をきたす重大な疾病で、作業効率が上がらない（プレゼンティーズム）ことにより、我が国では年間 3600 億～2 兆 3000 億円の損失が発生していると推計されているが、病院受診率は 30%程度である。2000 年代よりトリプタンが登場し、急性期治療が飛躍的に向上したが、認知度は低く、恩恵を受けている方は少ない。‘頭痛は我慢するもの’という国民性があるのであろうか。トリプタンには血管収縮作用もあるため、狭心症や脳梗塞など血管病変のある方には禁忌であることも影響している。2022 年にラスミジタンが登場し、トリプタンが使用できない、服薬タイミングがつかめない方にも選択肢が広がった。また予防療法も進歩している。従来 of 抗けいれん薬や Ca 拮抗薬などはある一定の効果はあるものの、効果発現までに時間を要することや、倦怠感や催奇性などの副作用の問題で、服薬をためらうことや継続ができないことも多い。2021 年に CGRP 関連抗体薬が登場し、予防効果が向上した。重篤な副作用がなく、効果発現が比較的に早いいため患者さんの QOL 改善が望める。